（大正十四年三月廿五日第三種郵便物認可）

磐城商工時報

月三回發行五、十五、廿五日
發行兼編輯人印刷人　渡邊源吉
福島縣平田町二番地
發行所　磐城商工時報社
廣告料　五號十四字詰一行廿錢　場所指定賃錢增
新聞定價　一部金五錢　一ヶ月十五錢　一ヶ年一円六十錢

平町民の輿論　協調の聲漲る

輿論を無視するは　町民の敵なり

大瀧發電所問題勃發してから前後四年、其間所謂許可反對期成同盟會なるものが

反對の中心となり、當時發電所設置に就ては少しの理解のなかつか平町民の多くは同盟會の空騒ぎに雷同して、路傍演說や町民大會を開いたり、縣に陳情したり可成り沸騰したものである、此の間に處して、發電所を利用して平町の利福を計る可しと主張し反對側に對抗して確乎不拔の確信の下に邁進した野崎滿藏、吉田五平、萩原義雄の諸氏に、利權組云々と

惡宣傳さ れたが、今日行政訴訟の結果平町が敗訴の報傳はるや、平町民は、漸く野崎氏等の所說に耳を傾け、伏見町長や町會議員中當面の責任者である水道水利委員の無責任を責めんとする輿論は全町に漲ぎり同時に同盟會の勢力亦昔日の如くならず、其影漸く薄らぎつゝあるは當然とせねばならぬ、ともあれ發電所の設置は今や平町の輿論となつてゐる以上、平町民の幸福であり平町將來の利益を基調とした條件の下に會社側と協調する事が最も賢明な策である、唯町民の代辯者たる町會議員の多くは發電所設置反對の意志を表示した事は、平町民の意志を無視したもので、町民の代表者たる資格がない、この際徒らに論爭し

軋轢葛藤を敢てすることは決して平町の爲に惜しまねばならぬ事であるから、一日も早く協調して平水道の安全を計り、平町民の利福を計る事が急務であらう。（渡邊生）

▲記者聯盟　一部旬刊記者の固い結策をする爲目下設立協議中

好成績を擧げた　豐間大敷網

當事者は何れも熱心な人々

豐間大敷網は設立以來好成績を擧げ石城漁業發達の上に少なからぬ刺戟を與へた効績は認めてやらねばならぬ、一局部にせよ豐間濱をして盛賑ならしめた大敷網は豐間漁民にとつて恩人である、大敷網の主宰者である遠藤治太郎氏を始め阿部彦次郎、酒井與右衛門兩氏共に大敷網事業に對しては深い經驗を有し又極めて熱心な人であるから、豐間に該事業を設置して以來嘗て失敗に終つた事がない、今夏も漸く漁獲期に近づいたから豐漁を見るであらう。

有段者會　發會式

磐城講道館有段者會の發會式は去る十二日午後十一時より平劇場に擧行した、定刻會長諸橋守次氏の開會の辭に始まり副會長橋本芳太郎氏は設立の經過報告をなし終つて來賓の祝辭あり、嘉納治五郎氏の講演に移り多大の感銘を與へた、中食後鷹崎正見、岡田朝五郎、村上、嘉納治五郎諸氏の演說あり終つて實演に移り午後四時盛會裡に閉會した、因に同會の役員は次の如し

▲會長諸橋守次▲副會長橋本芳太郎▲幹事加藤丈夫、中野康平、齋藤覺、武川信夫、小野仁一▲兼會計主事關內正一▲審議員四段橋本芳太郎、同齋藤覺、同片寄政直、同齋藤昌秀、三段牛來不二夫、同鈴木末治郎、同鈴木寅之丞、同長谷川直次郎、同青天目源一郎▲顧問五段牛久孝四郎、五段鷹崎正見

十姉妹飼養と其實驗談

渡邊愛鳥園主

十姉妹を飼養するにはまづ庭籠の用意をせねばならぬ、庭籠の法寸は高さ一尺二寸、幅一尺前後、奥行一尺二寸位で前面は三分目位の金網張りとし金網の三分の一の處へ引戸を拵へる、又箱の隅の上部には巢をのせる棚を造り下の方にも餌を入れる器をのせる棚を造る成る可くは引出しに造つた方が掃除に便利である、巢は藁製の壺巢がよろしい、此鳥は非常に巢を慕ふ鳥であるから常に巢を與へた方がよろしく夜になれば巢の中で安眠するのである、止り木はニハトコかウツギの皮付がよろしく一本は太く一本はほそくする、庭籠の用意が出來たら種子鳥の買入をせねばならぬ此種子鳥買入は最も大切で信用のない鳥屋などにだまされ三四年も卵を產んだ老鳥や種種惡癖のある鳥や弱い鳥などをあづけられぬやう十分信用のある鳥屋又は知人とか愛鳥家などから分けてもらう方が安全である、筆者も飼ひ始めには親と稱して雛の巢立つ後間も無いものや食卵癖のあるのや又間違でもあらうが雛二羽をつがいだと信じて半年も飼養したなどの失敗した經驗がある、最も一番安全なのは巢立後一ヶ月程の雛を買ひ入れる事で何故かと云ふと上等な親は誰でも手放したくないのが人情だし雛だと三月もすると產卵するから此方が無難である、重ねて云ふが、いたづらに値の安いのに迷はされず惡い種子鳥を買ひ入れるやうな事のなきようくりかへして置く、飼料は粺三、粟二、キビ一の割合でよろしく又粺か粟の一種にても飼ひ得る外に清水は常に豐富に與へなくてはならぬ、常に水浴を非常に好むから、よごれたら成可は取り替えるようにしたい、青菜は常にたやさぬようにし土砂ボレー等も與へねばならぬ、此土（赤土）を與へる事は產卵上に一種の作用をなすらしい、次に巢引法について述べて見よう、巢引の用意、餌の加減によつて巢引を促進させる事が出來る、前に述べた餌の外に卵米をたべさせる事で、これをたべると雌雄が精分がつき四五日位にして交尾し雌が受精して二週間以內產卵をはじめるものである、卵米とは粉米（玄米の方がよい）二合五勺程に鷄卵一個をまぜ合して乾かしたものである、この卵米を別器なり餌の上になり入れて與へればよい副食物も常より多く與へねばならぬ、ボレーを多く與へる事は卵詰りを防ぎ消化を助け卵の殼を强くするものである底の砂土なども新らしいのと取り替え水は常の通りに與へ浴びてよごれたら取り替えてやる、秋から冬にかけては二度位あびたら水を出して置くようにして浴びすぐるを豫防するようにする、或人は抱卵中は水浴を禁じた方がよいと云ふ說もあるが、筆者の實驗によると却つて適度に水を浴させた方が孵化能率がよいようである、殊に夏季は時々水を替えてやり快よく水浴をさせぬと卵が乾燥して中で雛になり生きてたり乍ら殼から出られぬ事がある、冬でも室內溫度が五十度位あれば親を適度に水浴させるのである、そしてほんの少し水氣のあるうちに巢にはいつて抱卵するから却つて孵化率もよく雛の育ちもよいのである、巢は三十度位の角度をして上に向けて置いた方がよろしく此方が親鳥が安心して抱卵する事が出來るし卵が水平にして置いた時より散らばつて居ないので抱きよいのである、水平にして置くと親鳥の出入に過つて卵を落したり雛が相當育つてから這ひ出して落ちて死ぬ樣な間違も生じ易い、其他抱卵中には强餌と青菜丈ではやらぬ方がよい、何故かと云ひば此時期は親鳥は少しくつかれしめ自已の子を愛する念を强からしめた方がよい、この樣に管理して居ると最初の卵は十七日位、最後の卵は二十日位で卵を破つて出て來る、出た雛ははじめは何も食はずに蠢いて居るが三四日頃から親の餌を受けるようになる、雛の餌として卵米や青菜を與へると一ヶ月近くには巢立ちをするようになる、十日もすると親は再び造巢をはじめ次の產卵にかゝるから雛を分離せねばならぬ、一回の孵化が終つたならば庭箱は隅から隅まで掃除して巢藁も新らしいのと取りかへてやらねばならぬ巢ぐさはしゆろの毛でも折わらのはかまでもかるかやの穗でもよろしい、二寸位に切つてやつた方がよい、最初はどうしても無精卵が多いやうであるからもし一すの內二羽か三羽しかかへらぬ場合は無精らんや中止卵がごろごろしてれる、これをかへつた雛のためによくないと考へて一日か二日で拔きとる人もあるがこれは雛の爲に却つてよい事で卵があれば親は体を浮かせて抱いて居るから四月から十月までは少くも一週間、十一月から三月までは十二日間位は其儘にして置いて雛が稍々力づいてから拔き取つた方がよい、如何なる場合でも其卵の爲に幼雛が壓せられて死ぬやうな憂はないのである、却つてたまごを取れば雛が親に壓せられて死ぬ事がある、雛が一羽か二羽しかゝへぬ場合は無精らんや中止らんを其儘にして置く事がいよいよ大切である、どうかすると一羽二羽の雛が死んで混じつて居る事がある、此時もこれらの雛は冬ならば十三日、春秋は七日、夏は四日位其まゝにして置いた方がよい、雛がかなり大きくなるまでは手をかけず餌や水砂を入れて青菜を十分にし其他の時は障子をして置く事はよい事である、注意すべきは抱らん中の鳥をたゞろかさぬ事で、日頃から金網にはたきをかけて鳥を馴らしてれくのもよい、夏は蚊を防ぎ羽蟲の驅除は勿論す藁の取替え等にも細心の注意を拂ふ事が必要である、かくして手入管理を怠らずんばほんとうの心の愛を以つて飼養したならば小鳥は喜んで仲よく年がら年中せつせとひなをふやしてくれる。以上は筆者の實驗せし處なればあとは飼養しながら經驗を得て種々研究もし改良も出來る事と思ふ、終りに初心の飼鳥家に一言呈し度い事は小鳥飼養に一番必要な事は細心の注意と心の愛とであると云ふ事を。

雜誌・書籍・百貨
平デパートメントストアー
平驛前　電話六番
（クラブ高級化粧品特約販賣店）